

2022

生涯学習情報紙

発行：大和村教育委員会事務局・中央公民館

第342号



3年ぶりの第64回大和村ナイターソフトボール大会開催

令和4年4月18日～25日迄の5日間にわたり、大和中グラウンドにて、第64回春季ナイターソフトボール大会が開催されました。3年ぶりの開催に賑やさが戻り、試合を行う選手や応援者も笑顔が溢れ、勝敗に関係なく楽しんでいました。試合の結果は、大棚Aチームが13連覇を飾りました。最優秀選手賞は、同チームの全試合投手として安定したピッチングを見せた杉島勇選手が受賞し、2位は、大和浜チームでした。



13連覇の大棚Aチーム

◆イベント告知◆

6月12日(日)に、まほろば館前にて、すももフェスタと、自然の家がやってきたin大和村を実施します。様々な創作・体験コーナーを準備しておりますが事前申し込みが必要ですので教育委員会までご連絡ください。



昨年の自然がやってきたin大和村の様子

6月19日(日)に第7回大和村民グラウンドゴルフ大会を開催します。参加チーム数を先着20組といたします。各集落及び各種団体へ申し込み用紙を送付しますので、教育委員会に提出をお願いします。



昨年の村民グラウンドゴルフ大会の様子

「ハンセン病問題を正しく理解する週間」(6月19日～25日)

毎年6月下旬に、「ハンセン病問題を正しく理解する週間」が実施されています。この週間を契機に、ハンセン病について正しい知識と理解を持ち、差別や偏見のない社会をつくりましょう。ハンセン病は、かつて「らい病」と呼ばれていました。しかし、「らい」は長い間差別と偏見を受けてきた歴史があり、人々に正しい認識をもってほしいとの願いから、菌の発見者であるノルウェーの医学者ハンセン博士の名をとって「ハンセン病」と改められました。

令和4年度公民館講座開講式

◆公民館講座について◆

コロナ感染症拡大により、4月23日(土)に、各講座の講師のみが参集し、委嘱状交付と令和4年度の講座を行う上での留意点等の打ち合わせを行いました。講座の方は、5月より開始となります。



公民館講座開講式の様子



本(ふん)の読(ゆ)む芋果てやねん?

“大和村の人口は減っている”と思っていましたが、3月1日付けの『南日本新聞』に「推計人口の2021年報」が掲載されており、「県全体では11,768人減少した。人口が増えたの自治体は5つあって、始良市(163人)、東串良町(37人)、龍郷町(9人)、十島村(7人)大和村(1人)。残りの38市町村は減った。」とありました。「1人」かも知れませんが、「増加」です。

そこで、昔の大和村の人口はどうであったかを調べようと思い、『大和村の近現代史大和村誌資料集Ⅰ』(大和村誌編集委員会)を開いてみると、「1929年(昭和4年)末の大和村の戸数と人口」の史料がありました。最も人口が多かった年は別の年かも知れませんが下記の通りでした。

字名	戸数(戸)	人口(人)	字名	戸数(戸)	人口(人)
国直	42	233	大金久	57	360
湯湾釜	65	370	戸円	112	873
津名久	74	442	名音	125	1,093
思勝	82	400	志戸勘	32	230
大和浜	109	578	今里	230	1,569
大棚	190	1,296	合計	1,118	7,444

・村全体の戸数当たりの人数は約「6.7人」(現在は1.7)だったことが分かります。家屋の大きさは現在よりもかなり小さかったと思いますので、今より窮屈な空間での暮らしだったのではないかと思います。

・今里集落の人口に注目しますと、現在の大和村全体の人口を遙かに超えています。そしてその数は奄美大島でも、名瀬町、古仁屋村、赤木名村、湯湾村に次いで5番目の人口だったそうです。当時はカツオ業が盛んで、現在民家が集まっている所から宇検村につながる道の両側沿いにも民家が建ち並んでいたそうです。

ゲームもTVもない、ましてや電気も通っていない当時、家の中でも集落内でも子どもからお年寄りの方々までの賑やかな声が絶えなかったのではないのでしょうか。もし、吉幾三さんがそこで育っていたら、あの歌はこうなったのかも知れません。「♪おら こんな村好きだ おらこんな村好きだ…」

